



福全園志

後編

拾六

へ遠13
2475
35



門へ遠13
籍 2475
35

新編
日本書紀
卷之五

古記 漢書百官志或編卷之五

目録

比佐村古能負津船の文

糸川政能負津船の文

能負五郎一務治船の文

糸川政能負津船の文



運倉更歩ノ老以續之ニ於テ

比倉判者能負得反ラシ

等 伊 氏 多 家 科 計 一 是

而 止 計 一

須 家 一 是

運 料 亦 是

比倉判者能負得反ラシ



比倉判者能負得反ラシ

并 伊 氏 多 家 科 計 一 是

比倉判者能負得反ラシ

比倉判者能負得反ラシ

比倉判者能負得反ラシ

比倉判者能負得反ラシ

山崎氣節一公牙ちるりる吉田の也
成是流多子りんかき怪くの海流
物徳一りりりり其りりりりり
うく改子りりりりりりりりりり
引天子命トトトトトトトトトト
の位あるとととととととととと
とりりりりりりりりりりりりりり
体三がま佛若のまらりりりりりり

山海流るるるるるるるるるるる
張すぬりりりりりりりりりりり
山平急のりりりりりりりりりりり
神流成修一の流成りりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりり
とれりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりり
とりりりりりりりりりりりりりり

と想くともさあしきる世の
少くも人の後より一あり一係
ぐ能あるとち面の見くらしみざらしり
まことさむい妙法子あふびまふの徳
とまらえんうごめほまらふに新し長
後自将くと事うとまふの付りまふ
ア一其忍のそらうとて後歌と清
うらまかりうらまかりをせぬ在の清

書とみせ一に世うとさうとがふら
まらむをせぬわびやと仁心せぬ
常云海成たうにまらむまらむと
負れ然のそらと後ト一や席りらに
負れ然のそらと後とらふに能く
くしと老人のうらと物まとも
くしと老人のうらと物まとも
グー一唯今日の佛まるとさうと
グー一唯今日の佛まるとさうと

考て計多し子何よりいふ事や
くは少政もつともとあるはうがふき人の
計らひのうがざら体人子老るを先
ちには老るん体も存しむるべき
体得てはとらうし先能るは体
さめ計りしはとも少政りさるは
どつて体もとらうざらんは
しとらうともはさるるは
いふ事や

しとらうとして能るは
まらんとて能くもなり
うして能くもなり
ともは能くもなり
今少政りさるは
いふ事や

もやゆのらむらむとあつたんだまよ珠ん
づまー一 取巻してまのりくまらひ
子長る甲ふまを新ーリゾらあふま
汁もろろまあふらんだ 女給まてま
ゆあを情しむまあふらとま一併
の海舟紅船の海あらんまけらる
一まよまま難はあふらまよまーく
まらまよまの(家来とまあーははま

ゆらぶー一ゆらぶ能るあまらひゆ
糸さうまのゆらんやけ政佛像作
まらと舞てまららあまらまらて
態まのゆとまららまらし我まらま
まらゆらば備人ゆまらまらまら
佛新まらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら

其の如くともくしけんやとちまの
能くしりし毒とともらるるま
まはしき人をもかきまき候中子
懸して石神の鏡つくさるる天
皇とくまらるる皇とともらるる

能くしりし毒とともらるるま

系名にみまらるるま

依北東の鏡も負の東のしとつ用
改むん市川御面も御中御も
ともとも小川の御も御も能くし
能くしりし毒とともらるるま
まはしき人をもかきまき候中子
懸して石神の鏡つくさるる天
皇とくまらるる皇とともらるる

あて今や... 根柢能...
馬らふて... 此の...
とらうと... 眼...
能... 友...
うへ... ち...

ま... 七人の...
ま... ま...
あ...

内がかりよりしつらるる若君一人を奉
護して北條より川口にて謀叛の計
多しゆるに始りて尼侍等の少くして
計りてしつらるる其のしつらるる也
節多時日を節者討たれり御政小
北條の討日は節者討たれり御政小
心次節多時日を節者討たれり御政小
原日多時日を節者討たれり御政小

重宝のよりかきむしる能負が子息
比を多時日を節者討たれり御政小
河原日多時日を節者討たれり御政小
心次節多時日を節者討たれり御政小
能負が子息
一より多時日を節者討たれり御政小
かきむしる能負が子息
節多時日を節者討たれり御政小

此死の義賢と強し一隊の由一を此地
まがまおつたを毎日を継承するのみ
りるとうるまはとて平忠義の子名賢
梅の梅りゆむ歌の松をとうるむい
のうく強知とて一隊新子あぶりの
うとままものうまうとて一隊新と
一とままものうまうとて一隊新と
後意の中へつりまるとちかとうる一

ゆぐは原野ともや一隊とて一隊新と
えんまの志うとて一隊の義軍子の義り
をみそで板をよのいあまのうる義を
隊一のい能負の道をとて一隊と
義君とままものうまうとて一隊の
伊代其義君一馬の義をうる義を
ウカが別道とて一隊の義を
ゆがりゆをうる義と一隊の義を

もやうとてあつたの位をとりはし
一説のまきさき せんとうらるる 物をまきと
すえうしとせりらるる 着物のしほのあは
しかりしをとりしとせりらるる 一説と
に 物をまきとせりらるるのまきとせりらるる
に 一説とせりらるるのまきとせりらるる
とせりらるる 一説とせりらるる
あつた人とせりらるる 物のまきとせりらるる

よきものびだつたをとりしとせりらるる
とせりらるるのまきとせりらるる
に 物をまきとせりらるるのまきとせりらるる
に 一説とせりらるるのまきとせりらるる
とせりらるる 一説とせりらるる
あつた人とせりらるる 物のまきとせりらるる

主僕融良格伏お口の之主候を
ぬぬ方のとの勇みきんて美なる
ずりも六節みよれくぬぬおまらら
一むんよこそちひい何事ゆよ候を
候う候ひが何事ゆかを候を
づりも六節みよれくぬぬおまらら
をけちみしちよおれをきよの候
かみくれ何事ゆかを候を候を

みおらるるまきまきまき
切先とち候とまきと美候ふ
物もとふおたの物もよくま
あのみおたの物もよくま
しとみらるかまらるるま
とらまらひらららららら
ちとちとららららららら
かまらららららららららら

一、ついでに... 解任の...
 かねてより... 加へ...
 一、... 御...
 一、... 御...
 一、... 御...
 一、... 御...
 一、... 御...

て... 自... 一
 一、... 自...
 一、... 自...
 一、... 自...
 一、... 自...

無敵をいふと敵りしと一休は法を言
ふよと石の鮫の事あるはあはれ
そと等しからし時節なきらむ時節
廣えのまゝさくらくとあはれあはれ
新して能く一休と遠くし一休の
別ありと能く一休と遠くし一休の
うまうま年のち別くそと一休の
一休と一休と一休と一休の

合戦一休の事あるはあはれ
と一休の秋の日一日のまゝは
一休と一休と一休と一休の
一休と一休と一休と一休の
一休と一休と一休と一休の
一休と一休と一休と一休の
一休と一休と一休と一休の
一休と一休と一休と一休の

かきの跡は跡取して引違へしあは
よ平太のち切あらしき一も跡取を
さいつと跡中よぢ成るけして白言ん
とさらしき味かと群して笑へらん
つあまひらうのうさあなめらうら
やうづのくあらあらしき一も跡取を
たがらうの石葉もいさめらうら
あらしき一もあらしき一も跡取を

かー合致といふまはゆきあな
のうらうら一跡取の跡取を
るもあな長の跡取あな
あらしき一もあらしき一も跡取を
あらしき一もあらしき一も跡取を
あらしき一もあらしき一も跡取を
あらしき一もあらしき一も跡取を
あらしき一もあらしき一も跡取を
あらしき一もあらしき一も跡取を

